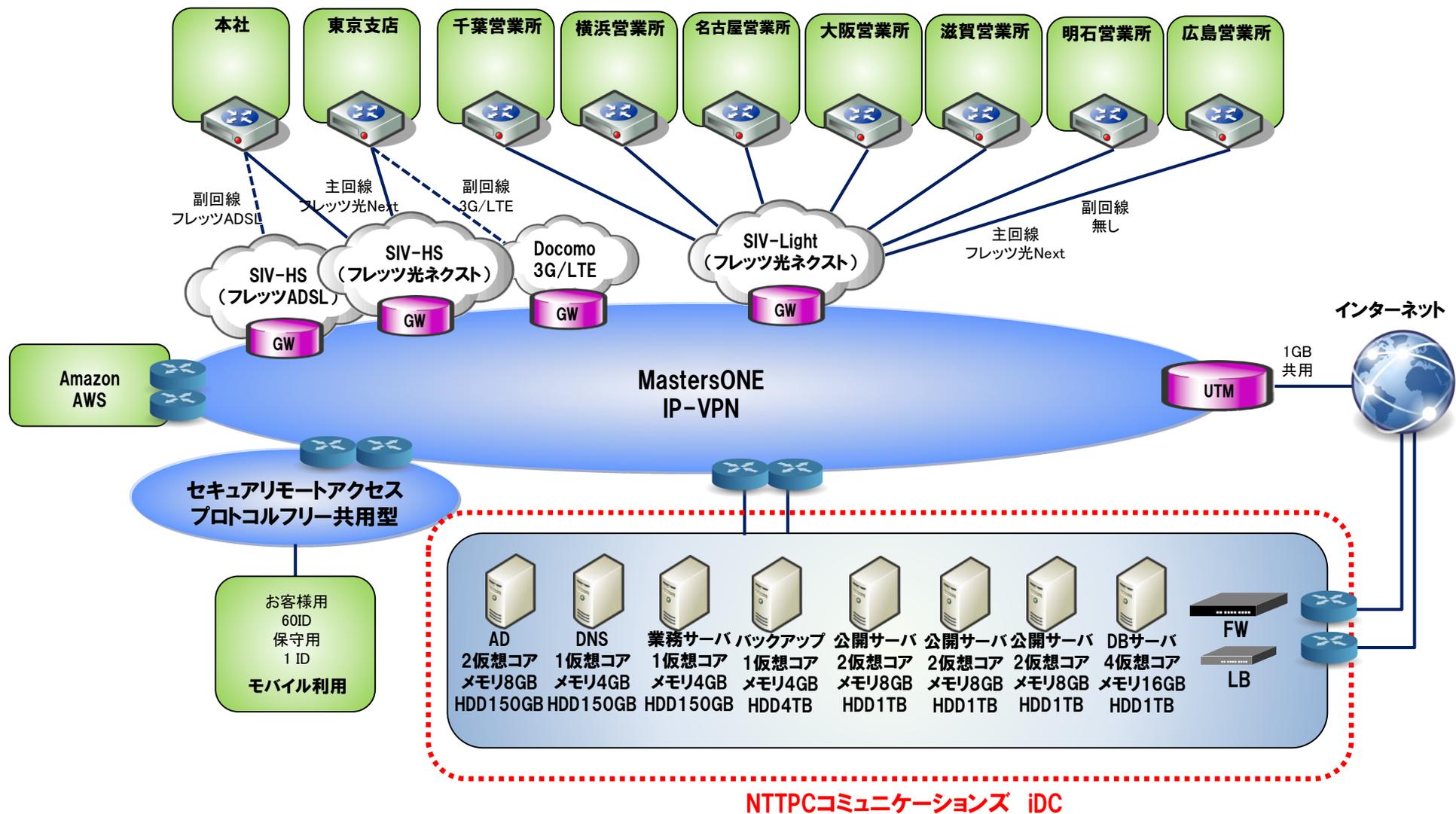


自社保有の複数のシステムをクラウド化 失敗しないための3つのポイント

(株)アカシック
(株)NTTPCコミュニケーションズ
松本 和明
ak_matsu@nttpc.co.jp
2015年1月

企業がクラウドを活用する概要図(実例)



システムをクラウド化する流れ（スモールスタートでテンプレート化して横展開）



従来のキャパプラでリソースを決めない

- Pay Per Useなのに「ちっとも安くならない」結果に...
- 今の時点で「必要な」リソースを見極める
- そのために一定期間稼働状態をモニターして分析する
- クラウド環境はサーバやリソースの増減をコンパネで制御する

移行設計と機能テストを怠らない

- P2V/V2Vツールでやれる範囲を見極める
- プログラムのデバイス扱いに影響がないことを漏れなく確認
- 全機能を漏れなくテストする(結合テストレベル)

運用監視は必ず再設計

- クラウドベンダーが全てをやってくれるわけではない
- 監視項目は網羅的に吟味して、漏れや無駄がないように

NTTPCは、スピーディかつ柔軟なリソース配分・料金の最適化・高い可用性を備えたクラウドの利点とお客さまのシステムに合わせて構成を決められるオンプレミスの柔軟性を兼ね備えたカスタマイズ可能なクラウドサービスを提供できます。

バーチャルプライベートクラウド

- ① お客さま専用のクラウドを仮想的に構築
- ② コントロール・パネル(Web GUI)による簡単操作
 - ・ サーバの増減
 - ・ ロードバランサによる負荷分散
 - ・ ファイアウォール&ポート転送によるアクセス制御
 - ・ ログインアカウントによるユーザアクセス
- ③ スナップショット機能による手動・定期バックアップ

ハイブリッド

- ① オンプレミス環境との連携
お客さまのサイトやハウジング(オンプレミス環境)とクラウドリソースの連携
- ② 他社パブリッククラウドとの連携
他社クラウド(Amazon Web Service)とのダイレクトコネクトによるセキュアな相互接続

柔軟なカスタマイズ

- ① システムに応じてネットワークを柔軟に構成
- ② お客さまのIPアドレス持ち込みも可
グローバル・プライベートのどちらにも対応
- ③ お客さま独自のテンプレート*保存機能
*よく使うアプリをプレインストールしたOSイメージ
- ④ 「ドメイン」によるマルチテナント機能
部署・プロジェクト毎に仮想的に分割が可能

Pay-per-Use

- ① 実際に使用した分だけ課金
- ② 細かな課金単位
 - ・サーバ (CPU・メモリ・ディスク利用量)
 - ・仮想スイッチ(外部接続)
 - ・仮想ルータ (ファイアウォール・ロードバランサ)